



2001春日井市民第九演奏会

とき 2001.12.2 SUN 午後3時開演 春日井市民会館

主催 春日井市、(財)かすがい市民文化財団、春日井市教育委員会、2001春日井市民第九演奏会実行委員会

共催 春日井市交響楽団、春日井第九合唱団

後援 中部大学、中日新聞社

ごあいさつ



春日井市長 鶴飼 一郎

本日は、「2001春日井市民第九演奏会」によ
うこそお越しくださいました。年末のひととき、
今年も皆様とともに「第九」の調べを鑑賞できることを大変うれしく思います。

平成5年に市制50周年を記念して初演されて以
来、本年で第9回を数えます春日井市民第九演奏
会は、毎年多くの市民の皆様方の参加を得まして、
この時期に欠かすことのできないイベントとして
定着してまいりました。これもひとえに、春日井
第九合唱団と春日井市交響楽団の皆さんを始め、
関係の皆様の多大なるご尽力の賜ものと心から感
謝申し上げます。

本市では「個性ある文化と豊かな情操を育むま
ちづくり」をテーマに、文化の香り高いまちづくりを進めておりますが、こうした市民の皆様方に
による積極的な文化活動は、文化都市・春日井を育
していく大きな原動力になると確信いたしております。

今回は、指揮者に「第九」初演の地ウィーンか
らアレキサンダー・ドゥルカー氏を再びお迎えす
るとともに、国際的に活躍されているミケーラ・
ズブルラーティ氏を始め実力派のソリストの方々
をお迎えしております。

今年も残すところ一月となりました。師走のひ
ととき、「第九」の調べを聴きながら、この一年
を振り返り、新たなる年に思いを馳せてみてはい
かがでしょうか。

どうぞ、ごゆっくりお楽しみください。



2001春日井市民第九演奏会実行委員会会長
中部大学学監 三浦 昌夫

本日は、「2001春日井市民第九演奏会」へよ
うこそおいで下さいました。

「文化とは市民のコンセンサス(共通の思い)の表
現である」と信じます。市民が歌い、市民が演奏
し、市民が聴く — この春日井市民第九演奏会の
循環の構造が素晴らしいのは、今日の聴き手が、
明日の歌い手になることです。こうして、ぐるぐ
る回るねじの回転のように、春日井の音楽文化は、
多くの人たちを仲間に加えながら、次第に充実し
ていくことでしょう。

今年の「第九」も、以前にもまして、さらに充
実したものになりました。ワインから、アレキ
サンダー・ドゥルカー(Alexander Drcar)さん
を指揮者にお招きました。ヨーロッパで、いま、
もっとも活躍中のドゥルカーさんですが、「春日
井第九」の指揮は今回で3回目になります。ソブ
ラノには、イタリアのミラノからミケーラ・ズブ
ルラーティ(Michela Sburlati)さんをお招きし
ました。圧倒的な迫力による、華やかなイタリア
的「ベルカント第九」が期待できます。楽しみで
す。バスは、おなじみの稻垣俊也さん。稻垣さん
も、3回目になりますが、東京や名古屋同様、春
日井における人気のほどがしのばれます。アルト
は、牧野真由美さん。重量感のある本格的なアル
ト歌手の少ない日本では、貴重な存在です。テノ
ールは、若手の第1人者平尾憲嗣さんです。ベテ
ラン指揮者とこの4人の優れた歌手のみなさまは、
これまでにない最高の「春日井第九」を聞かせて
下さることでしょう。

今年もみなさまと一緒に「春日井第九」を樂
しみながら、新しい年が歡喜に満ちた平和な年で
ありますように願っております。

プログラム

Program

ルートヴィヒ・ファン・ベートーヴェン作曲
LUDWIG VAN BEETHOVEN (1770-1827)

交響曲第9番 二短調 作品125 「合唱つき」 Symphony No.9 in d-minor op.125 "Choral"

第1楽章 アレグロ マ ノントロッポ, ウン ポコ マエストoso
1mov. Allegro ma non troppo, un poco maestoso

第2楽章 モルト ヴィヴァーチェ
2mov. Molto vivace

第3楽章 アダージョ モルト エ カンタービレ
3mov. Adagio molt e cantabile

第4楽章 フィナーレ, プレストーアレグロ アッサイーレシタチーボーアレグロ アッサイ
4mov. Finale,Presto – Allegro assai – Rezitativo – Allegro assai

指揮者
Conductor

アレキサンダー・ドゥルカー

Alexander Drcar



ソプラノ Soprano

ミケーラ・ズブルラーティ

Michela Sburlati

アルト Alto

牧野 真由美

Makino, Mayumi

バス Bass

稻垣 俊也

Inagaki, Toshiya

Chorus conductor

合唱指揮 吉川 朗

Yoshikawa, Akira

水谷 朋子

Mizutani, Tomoko

滝沢 博

Takizawa, Hiroshi

Music director

音楽監督 都築正道

Tsudzuki, Masamichi

Sub conductor

合奏指導 加藤完二

Katoh, Kanji



管弦楽 春日井市交響楽団

KASUGAI CITY PHILHARMONIC ORCHESTRA



合唱 春日井第九合唱団

KASUGAI CHORUS OF THE 9TH SYMPHONY

出演者紹介

指揮者 アレキサンダー・ドゥルカ



いま、もっとも活躍中のウィーンのベテラン指揮者。1995年以来、クラーゲンフルト(オーストリアのケルンテン州の首都)の準音楽監督をつとめています。交響曲や協奏曲の指揮のほかに、オペラのレパートリーも広く、「フィデリオ」「リゴレット」「セヴィーリアの理髪師」「コシ・ファン・トゥッティ」「ボエーム」などで好評。1992年にウィーン音楽大学の大学院で指揮のディプロマ(資格証明)を取り、オーストリア教育省から名誉賞を受けました。大学では、指揮と作曲とコンサート・ピアノとオペラ指導者(コレベティトゥア)を学びました。ヨーロッパの主要劇場で、コンサートとオペラの双方の指揮者として多くの公演に出場しています。1997年に、パルセロナのリシュー劇場で「道化師」や歌劇「哀れな水夫」(ミューテル作曲)を指揮しました。今回、春日井市民第九演奏会実行委員会の紹聘により2度目の来日が実現しました。

ソプラノ ミケーラ・ズブルラーティ



イタリア・オペラの大型歌手で、「歌姫」の名にふさわしく、美貌と歌唱力と演技力と役柄への集中度では、いま最高の評価をえています。最初、ローマのサンタチェチリア音楽院にてハープでディプロマを取得してハーピストとして活躍していましたが、1989年に、メノッティ作曲「靈媒」のモニカ役でオペラ歌手としてローマでデビューしました。1991年には、マダムバタフライとマッティア・バッティスティーニ・コンクールに優勝し、テアトロリエティにて「ラ・ボエーム」のミミ役を歌い、同年トーティフェステバルの開幕に「修道女アンジエリカ」のタイトルロールを演じました。ドニゼッティの「夜明けの公爵」、シュトラウスの「カブリッシュ」の伯爵夫人、ブッチーニの「マノンレスコ」。ロッシー二の「スタバート・マーテル」、オリジナル版「ランメルモールのルチア」、「ラインの黄金」のフライア、「トゥーランドット」のリュウ、「カルメン」のミカラ、「道化師」のネッダ、ヴェルディ「レクイエム」、モーツアルト「レクイエム」など、オペラや宗教曲を問わず、多くのステージに出演。春日井の第九演奏会でも、歌姫の魅力を十分に発揮して、春日井第九の歴史を、さらに華やかなものにするでしょう。

アルト 牧野真由美



貴重な若手メゾ・ソプラノとして注目を集めています。東京芸術大学声楽科卒業。同大学院修士課程修了。オペラ「フィガロの結婚」のマルチエリーナとケルビーノ、「ドン・ジョヴァンニ」のドンナ・エルヴィラ、「リゴレット」のマッダレーナ、「カルメン」のタイトルロールなどを歌っています。サイトウキン・フェスティバル松本で、オペラ「ティレジアスの乳房」「イエヌーファ」(指揮・小沢征爾)でも、ソロで出演。藤沢オペラ・コンクールに入賞。記念コンサート(指揮・大野和士)に出演。そのほか、モーツアルトの「レクイエム」「戴冠ミサ曲」、ベートーヴェン「ハ長調ミサ」「第九交響曲」などのソロを歌う。1999年第30回イタリア声楽コンクール金賞受賞。

バス 稲垣 俊也



東京芸術大学卒業。文化庁オペラ研修所第7期生修了。卒業後直ちに「第九」(東京交響楽団)のソリストとして楽壇にデビュー。1990年文化庁2年派遣芸術家在外研修員としてイタリア留学。91年カシナ国際声楽コンクール入賞。92年パレマ・ヴェルディングコンクール優勝。シエナ音楽祭で欧州デビューを飾る。日本では藤原歌劇団「ラ・ボエーム」コッリーネ、「ルチア」ライモンドをはじめ、二期会「トロヴァトーレ」フェッランド、「カルメン」エスカミリオ、「愛の妙薬」ドゥルカマーラ等で活躍。二期会オペラ21シリーズ「ドン・ジョバンニ」の主演でも絶賛される。第3回グローバル東敦子賞受賞。第22回ジロー・オペラ新人賞受賞。伊藤亘行氏、アルド・ブロッティ氏に師事。97年新国立劇場オーブニングで「建(タケル)」の主役を飾る。NHKニューイヤー・オペラコンサート、FMリサイタル、NHK「堂々日本史」のテーマ曲を歌うなど放送分野においても活躍中。二期会会員。



音楽監督
都築 正道

1940年名古屋市生まれ。名古屋大学文学部美学卒。関西学院大学大学院博士課程修了。「ワーグナー研究」で文学博士。現在、中部大学教授。春日井市交響楽団音楽監督。愛環音楽連盟理事長。朝日新聞音楽評担当。春日井文化フォーラム・企画運営アドバイザー。春日井文化懇話会会長。(財)かすがい市民文化・財団理事「オペラ・トーク」「ハイビジョン・オペラ・シアター」など、講演会やTVや雑誌でオペラの解説。「名古屋オペラ・サロン」主宰。主著『楽劇: 音と言葉の美学』(音楽之友社)。



コンサートマスター
練習指揮
加藤 完二

ヴァイオリンを尾島綾子・東儀幸各氏に師事。在学中より指揮を学び、卒業後関西二期会等で朝比奈隆氏他の副指揮を務めた。大阪音楽大学でのオペラ指揮を皮切りに、各地でオーケストラやオペラを指揮。特にアマチュアオーケストラのトレーニングは好評。ルーマニアの「第2回ディヌ・ニクレスク国際指揮者コンクール」入賞及び審査員特別賞受賞。6年後同国でオペラ「カヴァレリア・ルスティカーナ」他を客演指揮し、海外でも評判を得る。伊丹シティフィルハーモニー管弦楽団監督。クリフ室内管弦楽団主宰。



合唱指揮
吉川 朗

愛知教育大学音楽科卒業。同大学院(作曲)修了。第九指導は1987年の半田第九に始まり、ナゴヤシティ管弦楽団(現セントラル交響楽団)、一宮第九を歌う会、小牧第九合唱団など。NHKナゴヤニューサウンズオーケストラ常任指揮者。

ピアノ伴奏(合唱団)
竹内 理恵



オーケストラ 春日井市交響楽団

市民オケである春日井市交響楽団は、「市民が演奏し・市民が聴く・春日井市民のオーケストラ」として、市内の音楽愛好家を中心に、1990年(平成2年)11月に創立されました。愛称「カポ」(KAPo)は英字名称「KASUGAI CITY PHILHARMONIC ORCHESTRA」の頭文字をとったもので、イタリア語の「カポ」(capo 頭・先頭に立つ者)の思いもあります。毎年、7月の定期演奏会と12月の「春日井市民第九演奏会」を中心に、数多くのオーケストラ活動を行っています。この7月には松下電工と松下電器(財)かすがい市民文化財団の支援でニューヨーク・シンフォニック・アンサンブルとの「ジョイント・コンサート」や「第3回愛環音楽祭」(9月・岡崎)や「市民オケ・フェスティ in kasugai」(11月)などにも参加。団員は、会社員・公務員・教員・医師・主婦・学生・自営業者などからなる60名。私たちにとって、最大の喜びは、一人でも多くのみなさまに演奏会においていただき、クラシック音楽を好きになっていただくことです。そのため、「名曲の名演奏」を心がけています。この9月の第10回記念の定期演奏会では、念願のベルリオーズの「幻想交響曲」に挑戦し、市民の喝采をえました。これからも、さらに、市民のみなさまに親しまれ、愛されるカポとして、市民音楽活動をつづけて参ります。温かいご支援をお願いいたします。(団長・花村浩克)



合唱 春日井第九合唱団

平成5年12月の春日井市制50周年は、春日井市民による市民合唱団と創立間もない春日井市交響楽団による、ベートーヴェンの「第九演奏会」の春日井初演によって、盛大に祝われました。この演奏会を記念して作られたのが、「春日井第九合唱団」です。それ以後、毎年12月には、新しく募集した市民も加わって、240名を越すメンバーが常に新鮮なベートーヴェンの「第九交響曲」を歌い続いている。創立以来、ベテランの吉川朗先生をはじめ、多くの優れた音楽家のご指導で、技術的にも、アンサンブル的にも、完成度の高い「第九」演奏を心がけています。平成7年からは、年末の「第九」の本練習に入る前に、特別練習として数々の名合唱曲にも挑戦することになりました。近隣四都市(岡崎・豊田・瀬戸・春日井)で作る愛環音楽連盟の音楽祭にも参加しながら、本年6月30日(土)に当合唱団としては始めて、特別練習の成果として「ヨーロッパたのたび」演奏会を文化フォーラム春日井で開くなど、積極的な音楽活動をつづけています。また、今年の「第九」は、ベートーヴェンと同じドイツのボン出身の小黒びるぎった先生の発音指導によって、さらに、ベートーヴェンとシラーの本質に近づいた演奏が出来るものと自信しています。ご期待下さい。(団長・荒川昭代)

「第九」定訳への道

2001春日井市民第九演奏会
音楽監督 都 築 正 道

今年もまた、春日井市民による、熱意と力あふれる「第九」をお聞き下さい。毎年行われる春日井市恒例の年末の「第九」ですが、本日の「春日井第九」はいつもと違います。合唱団をごらん下さい。言葉が明瞭で、発声も美しく、笑顔が絶えず、自信を持って歌っています。その姿は、きっと、例年以上に、みなさまを満足させることでしょう。これは、オーケストラも同じです。なぜかといえば、私たちは、シラーの詩を十分に理解して、歌い、演奏しているからです。

定訳を試みる ベートーヴェンの「第九交響曲」の終楽章は、シラーの詩「歓喜に寄せる頌歌」(An die Freude)をテキストにして人類愛を歌ったものです。シラーの詩が難解であるため、これまで、日本人による、厳密で、学問的な「テキスト・クリティーク」(原典判読)による「定訳」はありませんでした。先の7月に、愛環音楽連盟が、シラーの研究家、内藤克彦南山大学名誉教授をお招きして、岡崎市でシンポジウムを開きました。「"An die Freude"の詩と真実」がそれです。そのとき、内藤克彦先生が、シラーの原典を丁寧に読み解き、多くの資料を駆使して、この詩の全文をお訳しになったのが別掲のものです。ここには、これまで疑問に感じていた「解釈」や「訳語」が、極めて明快に解決されて、訳されています。この「内藤訳」を私たちの「定訳」としたいのです。

神々の火花 例えば、この詩でもっとも重要な言葉"Freude"は、内藤訳では「喜び」となっています。単に「喜び」だけでは、特別の言葉のようには感じられません。「なんに対する」「どんな内容の」喜びなのか、良く分からぬからです。そこで、次の言葉"Gotterfunken"と"Elysium"が、大きな意味を持っています。この二つの言葉について、内藤先生は次のように述べます。まず"Gotterfunken"です——「この語が、天來のものと言つていいほど純粹で崇高な喜びの感情を表現した一つのメタファー（『神々の火花』のような【すばらしい】喜び）であることを現わしています。しかし、そのような説明を総合して、この語に、簡潔でしかも適切な日本語の訳語を振り当てるには、容易ではありません。『神々のひかり』、『神々のかがやき』、『神々のきらめき』、『天來のひかり』など、いろいろ考えられます。しかし、この語が、喜びを、神から火花のように放射されたものとして表現しているとすれば、多くの訳がそうであるように、一応、『神々の火花』としておくのがいいようにも思えるのですが、詩の訳語としては硬いので、もう少し詩的な訳語はないものかと考えられるのですが、適訳を案出するのは、至難のわざであるように見えます」(愛環音楽連盟発行『"An die Freude"の詩と真実』所収)。

聖なる喜び それで結局、内藤訳は、「神々の火花」に落ち着くのですが、私たちたちは、「第九」の"Freude"は、「『神々の火花』のような【すばらしい】喜び」であることを知ることになります。さらに内藤先生は、ゲーテの青年期の詩『プロメートイイズ』に言及して、そこに見られる「聖なる炎に燃える心」という表現から、シラーの"Freude"も、「聖なる炎に燃える心」の喜びであると指摘します。

喜びの諸相 さらに、内藤先生は、"Elysium"から"Freude"を読み解きます——「シラーにおいては、魂のふるさととしての、精神的愛における幸せな状態を言い表すものとして用いられています。すると、『Elysium生まれの娘』と言い換えられる『喜び』は、そのような精神的愛の幸運の中から生まれたものということになりますが、しかもそれが、『天上のものよ』と呼びかけられ、『きみの聖所』という表現さえ用いられるからには、それは、動物的な快楽であるはずではなく、天使たちとも共有できる、極めて神聖な、精神的な、靈的な喜びである、と解釈しなければならないと思います」。

初めての勉強会 この愛環音楽連盟のシンポジウムを受けて春日井でも、「第九」をより正しく理解して、より正確な発音で歌うために、同じ"An die Freude"についてのシンポジウムを開きました。合唱団員を中心に、一般の市民のみなさまと一緒に、シラーの詩の解釈とドイツ語の発音に本格的に取り組んだのは、第9回目の今回が初めてです。今回の講師は、ドイツ文学者の小黒孝友さんと中部大学助教授の小黒びるぎったさんです。孝友さんは、シラーの詩の構造について話して下さいました。そのときのお話を、次のようにまとめてみました。下手なまとめかたなので、責任は私(都築)にあります。

アクセント 詩を、歌として歌うときにもっと必要なことが二つあります。アクセントと韻です。まずアクセントですが、シラーのこの詩は、「トロカイオス」(trochaeos)といわれる「強・弱のアクセント」の単語ばかりを並べて作られています。どこまでいっても、同じ「強・弱」のアクセントがつづいていきます。この詩の規則的なアクセントに乗ってリズ

ムを作つていけば、言葉と音楽の一致を計るのに十分でしょう。

Freude, schöner Götterfunken,

Tochter aus Elysium,

Wir betreten feuertrunken,

Himmlische, dein Heiligtum.

Deine Zauber binden wieder,

Was die Mode streng geteilt;

Alle Menschen werden Brüder,

Wo dein sanfter Flügel weilt.

韻 詩のもう一つの重要な要素は、「韻」(いん)です。詩の各行——これを「聯」(れん)といいます——の終わりの単語が、同じ発音の語尾をもっています。例えば、第一行目の"Gotterfunken"(神々の火花)と第三行目の"feuertrunken"(火のように酔つて)が、語尾が同じ"-en"で終わっていることお気づきでしょう。また、二行目の"Elysium"(樂園)と四行目の"Heiligtum"(聖所)とが、同じ"-um"で終わっています。これを、[a-b-a-b]の「対韻」といいます。

音楽のデッサン このように、詩人は、同じことを現わすにも、その言葉が、「どんなアクセントなのか」「どんな語尾を持っているのか」を、十分に考えてから一つの言葉を決めるのです。ですから、「聖なる場所」を現す言葉が、たくさんあるからといって、ここでは、アクセントも韻も同時に一致しないような言葉、例えば、"Himmel"(天国)や"Paradies"(パラダイス)という言葉は使えないのです。アクセントと韻を意識しながら歌えば、自ずと音楽のフレーズが決まってきて、音楽全体のデッサンもはっきりしたものとなるでしょう。

抱擁韻 韵についていえば、ただ一ヶ所だけ[a-b-a-b]の対韻ではなく、[a-b-b-a]になっているところがあります。後半の「抱き合え」のところです。

Seid umschlingen, Millionen !

抱き合え、百千万の人々よ!

Diesen Kuss der ganzen Welt !

このくちづけを全世界に!

Bruder ! — überm Sternenzelt

兄弟たちよーあの星空の上には

Muss ein lieber Vater wohnen.

一人の慈父が住み給うに違ひないのだ

これは、「抱擁(ほうよう)の主題」による短い合唱曲です。この聯の韻だけは他の聯の韻と大きく違っています。最初と最後の聯が[-en]で、真ん中の二つの聯が[-elt]なので、[a-b-b-a]になっています。「どうしてかといえば、[a] が前後にいて、[b] を抱く形、すなわち『抱擁』を現しているからだ」と、以前、中部大学教授(当時)のドイツ文学者伊藤泰治先生が教えて下さいました。詩人と美学者と理想主義者であったシラーのすべてが、ここにある思いがします。

ラインラント 次に、ベートーヴェンと同じボン生まれのびるぎったさんが、ベートーヴェンの音楽と「ドイツ語の発音」についてお話し下さいました。まず、ドイツの地図を見せて、「ベートーヴェンはボンで生まれました。ライン川に沿ったボンは『ラインラント』(ライン川地方)の一つです。ラインラントの人は、へそ曲がりですから、ベートーヴェンの音楽も多分にそんなところがあるのでしょう」。ただし、びるぎったさんはとても素直な方です。ベートーヴェンのお祖父さんは、オランダからやってきました。ボンは、オランダにとても近いのです。ベートーヴェンのお父さんは宮廷の歌手でしたが、音楽の教え方はあまり上手ではありませんでした。11歳のベートーヴェンの音楽的才能を育てたのは、優れた教師のネーフェでした。ベートーヴェンが、シラーの'An die Freude'の詩を初めて作曲したのは、19歳のときでした。孝友先生は、「これはお酒を飲むときの歌です、作曲したベートーヴェンも一緒にになって歌つたことでしょう」とおっしゃいます。ベートーヴェンは、シラーのロマン的で、革新的な詩に強く魅了されたのです。これが、その後のベートーヴェンの芸術のありかたを決めたものとおもわれます。

天使の世界 そして、びるぎったさんは、シラーの詩を朗読しました。それはそれは、大変に美しい魅力的なドイツ語でした。びるぎった先生の読む詩だけを聞いていても、詩と音楽が結びついた、崇高な天使の世界に遊ぶ思いがしました。まさに、"Elysium"であり、"Heiligtum"でした。

「第九」の真理 そして、お二人の小黒先生は、シンポジウム終了後、そのまま合唱団の練習に残つて下さいました。お二人は、合唱指揮者の吉川朗さんと一緒に、実際の練習で歌われる一つ一つの言葉について、丁寧にダメを押していました。そのとき、シラーの詩の正しい読み方と発音をとおして、「第九の真理」に一步でも近づくことができた私たちは、どんなに幸運であったことでしょう。その「喜び」を、本日みなさまと共に分かち合いたいのです。

それでは、シラーの詩 "An die Freude" の全文を、内藤訳で読むことにいたします。

'An die Freude' 対訳

内藤克彦 訳

An die Freude

Freude, schöner Götterfunken,
Tochter aus Elysium,
Wir betreten feuertrunken,
Himmlische, dein Heiligtum.
5 Deine Zauber binden wieder,
Was die Mode streng geteilt;
Alle Menschen werden Brüder,
Wo dein sanfter Flügel weilt.

Chor
Seid umschlungen, Millionen!
10 Diesen Kuß der ganzen Welt!
Brüder—überm Sternenzelt
Muß ein lieber Vater wohnen.

Wem der große Wurf gelungen,
Eines Freundes Freund zu sein,
15 Wer ein holdes Weib errungen,
Mische seinen Jubel ein!
Ja — wer auch nur eine Seele
Sein nennt auf dem Erdenrund!
Und wer's nie gekonnt, der stehle
20 Weinend sich aus diesem Bund!

Chor
Was den großen Ring bewohnet,
Huldige der Sympathie!
Zu den Sternen leitet sie,
Wo der Unbekannte thront.

25 Freude trinken alle Wesen
An den Brüsten der Natur;
Alle Guten, alle Bösen
Folgen ihrer Rosenspur.
Küsse gab sie uns und Reben,
30 Einen Freund, geprüft im Tod;
Wollust ward dem Wurm gegeben,
Und der Cherub steht vor Gott.

Chor
Ihr stürzt nieder, Millionen?
Ahnest du den Schöpfer, Welt?
35 Such' ihn überm Sternenzelt,
Über Sternen muß er wohnen.

Freude heißt die starke Feder
In der ewigen Natur.
Freude, Freude treibt die Räder
40 In der großen Weltenuhr.
Blumen lockt sie aus den Keimen,
Sonnen aus dem Firmament,
Sphären rollt sie in den Räumen,
Die des Sehers Rohr nicht kennt.

喜びに

喜びよ、美しい神々の火花よ、
至福の園の娘よ、
われらは炎に酔いしれて、
天上のものよ、きみの聖所に歩み入る。
きみの魔力は
流俗の厳しく分離したものを、再び結び合わせ、
きみのやさしい翼の休むところ、
すべての人が兄弟となる。

合唱
抱き合え、百千万の人々よ!
このくちづけを全世界に!
兄弟たちよーあの星空の上には
一人の慈父が住み給うに違いないのだ。

一人の友の友となる
大きな幸に恵まれた者、
やさしい女性をかち得た者は、
声を合わせて歓呼せよ!
そうだーただ一つの魂をでも
この地上で自分のものと呼べる者は!
それをなし得なかった者は、
泣きながらこのまどいから消え去るがいい!

合唱
この大地球上に住む者は、
共感を信奉せよ!
共感が、われらを星々へ、
あの未知なる存在の玉座へ導いてゆくのだ。

喜びを、万物は
自然の乳房から飲み、
善きものも悪しきものも、みな、喜びの
ばらの道を追い求めてゆく。
喜びは、くちづけとぶどう酒と、
死の試練を経た友をわれらに授けた。
快樂は、虫けらに与えられ、
神の前に立つのは、智天使だ。

合唱
ひざまずくか、きみたちは、百千万の人々よ。
創造主を予感するか、世界よ。
星空の上に、神を求めよ、
星々の上に、神は住み給うに違いないのだ。

喜びは、久遠の自然の
強いばねだ。
喜びが、巨大な宇宙時計の
歯車を回し、
花々をつぼみの中から、
星々を大空の中からいざない出し、
天球を、観測者の筒の見知らぬ空間で
回転させているのだ。

Chor
45 Froh, wie seine Sonnen fliegen
Durch des Himmels prächt'gen Plan,
Laufet, Brüder, eure Bahn,
Freudig, wie ein Held zum Siegen.

Aus der Wahrheit Feuerspiegel
50 Lächelt sie den Forscher an;
Zu der Tugend steilem Hügel
Leitet sie des Dulders Bahn.
Auf des Glaubens Sonnenberge
Sieht man ihre Fahnen wehn,
55 Durch den Riß gesprengter Särge
Sie im Chor der Engel stehn.

Chor
Duldet mutig, Millionen!
Duldet für die bess're Welt!
Droben überm Sternenzelt
60 Wird ein großer Gott belohnen.

Göttern kann man nicht vergelten,
Schön ist's, ihnen gleich zu sein.
Gram und Armut soll sich melden,
Mit den Frohen sich erfreuen.
65 Groll und Rache sei vergessen,
Unserm Todfeind sei verziehn;
Keine Träne soll ihn pressen,
Keine Reue nage ihn.

Chor
70 Unser Schuldbuch sei vernichtet!
Ausgesöhnt die ganze Welt!
Brüder—überm Sternenzelt
Richtet Gott, wie wir gerichtet.

Freude sprudelt in Pokalen,
In der Traube goldnem Blut
Trinken Sanftmut Kannibalen,
75 Die Verzweiflung Heldenmut—
Brüder, fliegt von euren Sitzen,
Wenn der volle Römer kreist,
Laßt den Schaum zum Himmel spritzen:
80 Dieses Glas dem guten Geist!

Chor
Den der Sterne Wirbel loben,
Den des Seraphs Hymne preist,
Dieses Glas dem guten Geist
Überm Sternenzelt dort oben!

85 Festen Mut in schwerem Leiden,
Hülfe, wo die Unschuld weint,
Ewigkeit geschworenen Eiden,
Wahrheit gegen Freund und Feind,
Männerstolz vor Königsthronen—
90 Brüder, gält es Gut und Blut—
Dem Verdienste seine Kronen,
Untergang der Lügenbrut!

Chor
Schließt den heil'gen Zirkel dichter,
Schwört bei diesem goldenen Wein,
Dem Gelübde treu zu sein,
95 Schwört es bei dem Sternenrichter!

合唱
星々が天空の壯麗な平原を
飛翔してゆくごとく、朗らかに、
兄弟たちよ、きみたちの道を進め、
喜び勇んで勝利に向かう英雄のごとく。

真理の炎の鏡の中から
喜びは探究者にほほえみかける。
美德のけわしい丘の上へ
喜びは忍耐者の道を導く。
信仰の光かがやく山頂には
喜びの旗がひるがえり、
打ち碎かれた棺の裂け目からは、
喜びが、天使たちの合唱の中に立つの見える。

合唱
勇気をふるって耐え忍べ、百千万の人々よ!
よりよい世界のために耐え忍べ!
あの星空のかなたで
偉大な神が報い給うのだ。

神々に人は報いることはできぬが、
神々に等しくあることはすばらしい。
悲しい人も貧しい人も名乗り出で、
喜ぶ人と喜びを共にせよ。
恨みと復讐は水に流そう、
われらの不俱戴天の敵を許そう。
涙が彼の胸をふさぎ、
悔恨が彼の心をさいなむことのないように。

合唱
われらの黒表は破棄しよう!
全世界は和解せよ!
兄弟たちよーあの星空の上で、
われらが裁くごとくに、神は裁き給うのだ。

喜びは、ワイングラスの中に泡立ち、
ぶどうの黄金の血と共に
蛮人は柔軟を、
絶望は英雄的勇気を飲む—
兄弟たちよ、並々と注いだグラスがめぐり来らば、
きみたちの席から飛び立ちて、
泡を天に向かって飛び散らせ、
グラスをあの善い靈に向かって上げよ!

合唱
星々の渦巻きがたたえ、
熾天使の賛歌がほめたたえる、
あの星空のかなたの
善い靈に、グラスを上げよ!

重い悩みには不抜の勇気を、
罪なくして泣くところには救いを、
固い誓いには永遠を、
友と敵には眞実を、
玉座の前では男子の誇りを—
兄弟たちよ、たとえ財産と生命に関わろうとも—
いさおしには栄冠を、
いつわりのやからには没落を!

合唱
この神聖な輪をより固く結び、
この黄金のワインにかけて、
誓約に忠実なることを誓え、
あの星空の審判者にかけて誓え!

みんなで歌おう、春日井贊歌を…

＜歓喜の歌＞

作詩・なかにし札

1. あいこそかんきにみち
びくひ一かりさえぎる
くなんをこえてすすま
んかんきのいただき
ふみーしめたとときわ一れ
らはきょうだいせかいはひーと
つかんきのいただきふみー
しめたとときわ一れらはきょう
だいせかいはひーとつ

1. 愛こそ歓喜にみちびく光
さえぎる苦難を越えて進まん
歓喜の頂き踏みしめた時
我らは兄弟世界は一つ
歓喜の頂き踏みしめた時
我らは兄弟世界は一つ

2. 気高き乙女をかち得たものよ
手をとり歓呼の叫びをあげよ
人間一人で何が出来よう
愛なき孤独の人は立ち去れ
人間一人で何が出来よう
愛なき孤独の人は立ち去れ